

# 市民目線に立ち、現場主義を貫きます

安曇野市長選が10月11日に行われ、宮澤宗弘氏が当選、二代目安曇野市長に就任しました。「現場主義を貫く」と話す宮澤市長に話を聞きました。

「新市長となった今の気持ちを聞かせてください。」

## 行動力と行政力で

このたび、多くの市民の皆さまから力強いご支援をいただき、二代目市長に就任いたしました。あらためて責任の重大さを痛感しています。これまで議会人として長年務めてきた経験と実績の上に、現場の声を大切にし、信条とする「行動力と行政力」を最大限に活かしてまいります。当面する諸課題の解決

と、困難な時代を切り開く任にあたることこそが私の責務であると受け止めています。市民が主役の市政の実現に向け、職員一丸となって全力で取り組んでまいります。

「市の現在の体制をどのようにとらえていますか。」

## 市民に伝わるように

本庁支所機能が8カ所に分散し、職員は1000人（臨時職員含む）を超え、市民に見えに

くい状況もあります。市のやっていることが皆さんにきちんと伝わるようにし、市民の皆さまの頼りになるまちづくりを目指すことが大切だと思っています。

「市していることを伝えていくために、市民とどのように対話を進めますか。」

## 原点は「現場」

政治の原点は現場だと思っています。待つているのではなく、できる限り自分の目で確かめるため、市民の中に飛び込んでいきたいと思っています。

私の地元、高

家にある西田幾多郎先生の碑には、「物となつて考へ物となつて行ふ」という言葉が刻まれています。相手の立場を尊重して、耳を傾けるべきはしっかりと、市民の皆さまが理解しやすいような丁寧な説明をし、問題の解決にあたるようにしたいと考えます。

# 共に響き合える安曇野を目指して

また、国や県の動向などの情報収集もしっかり行いながら、施策に取り入れるべきものは、取り入れなければならないと思っています。市長となったこれからも現場主義を貫くつもりです。

「来年度の予算編成の時期に近づいていますか。」

## 生活に密着した施策を

数多くの企業を訪問して、依然として景気が低迷しているこ

とを痛切に感じました。雇用も不安定な状況が続いています。22年度の税収は、21年度以上に落ち込むことが予想されます。限られた予算を有効に活用するため、事業に優先順位をつける。最大限に無駄を排し、市民に密着した施策が打ち出せるように心して取り組みたいと思います。

す。また、市民目線に立つた上で、前例・慣習にとらわれることのない大胆な施策の展開も必要とされています。自主、自立の時代に向けて、自治体としての行政能力と地域力の向上を図ります。

「最後に今後のまちづくりの展望を聞かせてください。」

## 田園産業都市「安曇野」

将来に夢と希望を託すことができる「田園産業都市」を目指して、長期ビジョンに立ちながら、創造的な市制を確立します。そして、市民の皆さまが「暮らして良かった。住んで良かった」と実感できるまちづくり、それぞれの地域や市民が共に響き合えるまちづくりを進めてまいります。

そのために、私の持てる力をすべてささげ尽くす決意です。どうか皆さまのご支援、ご協力を心よりお願いいたします。

**宮澤宗弘** (みやざわ・むねひろ)  
プロフィール◎ 1939年豊科高家生まれ。県立南安曇農業高等学校卒。71年に豊科町議会議員となり、91年に長野県議会議員に。豊科高家在住。69歳。



(写真右) 10月23日の初登庁  
(写真上) 同日午前9時半、幹部職員を前に初訓示  
(写真左) 11月6日、改選後、初の臨時議会

